



アトピー外来紹介	P1
当院では新薬の開発に 幅広く貢献しています	P4
10月開催糖尿病フェスティバルのご案内	P4
行事予定	P4
新任医師のご紹介	P4
退職医師の紹介	P4

特集 呼吸器外科……P2～3

目次

1. 呼吸器外科とは
2. どんな病気を扱うの？
3. 肺以外にはどんな病気を扱うの？
4. 最新の手術
5. 当院の呼吸器外科手術
6. 最後にメッセージ

アトピー外来紹介

皮膚科 医員 川崎 洋



本年6月より、当院皮膚科でアトピー性皮膚炎の専門外来を開設させていただきましたので、ご紹介をさせていただきます。

1. アトピー性皮膚炎の専門外来が必要となった理由

アトピー性皮膚炎の患者さまの多くは、“治療をすると症状が改善するのですが、治療をやめたり弱めたりすると、すぐに症状が元に戻ってしまった”という経験をされたことがおありだと思います。その結果、どうせ治らない病気なのでは、と、治癒を諦めていらっしゃるかもしれません。治らないのはなぜでしょうか？それは、患者さまも私たち皮膚科医の多くも、目の前の皮疹のみを治せばいいと考えているからです。しかし実際には、氷山の一角として例えられるように、患者さまそれぞれで異なる多種多様な因子が複雑に絡み合い、その最終的な結果として皮膚炎が生じているのです(図1)。したがって、患者さま個々で異なる氷山の本体を意識して治療をしなければ、皮膚炎は治らない、ということになります。その考えに基づけば、患者さまそれぞれの症状、生活環境、悪化因子に対応した“カスタムメイドな”治療法を提案する必要がある、ということになります。それを実現するためには、患者さま一人ひとりに、ある一定の時間を確保して診療にあたる必要があります。そのため、**中等症から重症のアトピー性皮膚炎患者さまを対象とした、完全予約制の専門外来を開設させていただきました。**

2. 診療内容

日本皮膚科学会のアトピー性皮膚炎診療ガイドラインに基づいた標準治療を行います。保湿剤外用を中心とするスキンケア指導、ステロイド剤・免疫抑制剤(タクロリムス)による外用治療、抗ヒスタミン剤の内服治療、悪化因子の検索・除去指導を基本とします。

また、患者さまの症状に応じて、下記のような新しい治療法を提案致します。

①プロアクティブ治療(図2)

患者さまの多くは、皮疹のある部位にステロイド剤を連日外用し、皮疹が軽快したらステロイド剤の外用をやめ、保湿剤の外用のみを継続するように、担当医から指導を受けてこられたと思います。しかし、ステロイド剤の外用をやめるとすぐに皮疹の再燃を繰り返してしまう患者さまがいらっしゃいます。プロアクティブ療法は、皮疹が元々あった部位に、皮疹軽快後も週1～3回、抗炎症作用のある外用薬を塗布することで、皮疹の再燃を長期にわたって抑える治療法です。当外来担当医は、ステロイド剤よりも長期的副作用が少ないと考えられているタクロリムス軟膏を用いたプロアクティブ治療の有用性を国内で初めて報告しました(笠井、川崎等、日本皮膚科学会誌:124(6),1141-47,2014)。海外では約10年前からその有効性が報告されている治療法です。

②シクロスポリン内服治療

広範囲に皮疹が広がり、かゆくて睡眠や日常生活に影響が出てしまっている16歳以上の患者さまを対象に、免疫抑制剤(シクロスポリン)の内服治療をご相談させていただきます。1週間以内に劇的に痒みが軽減し、1～2ヶ月で皮疹が軽快するケースが多々みられます。

③細菌をターゲットにした治療

近年、黄色ブドウ球菌という細菌が、アトピー性皮膚炎の症状の悪化に関連するという報告が多数出ています。欧米の診療指針では、菌をターゲットにした治療法が明記され、日常診療で頻繁に用いられています。ジクジクした皮疹を繰り返す方を対象に、細菌をターゲットにした治療法をご相談させていただきます。

当外来担当医は、慶應義塾大学病院でアトピー性皮膚炎専門外来を約7年半に渡り担当し、研鑽を積んでまいりました(現在も同外来診療を継続中)。アトピー性皮膚炎治療にお困りの患者さまは、当外来の受診をぜひご検討ください。
(お願い:外来初診時は、現在の治療内容とこれまでの症状経過をお伝えいただけますと幸いです)



図1

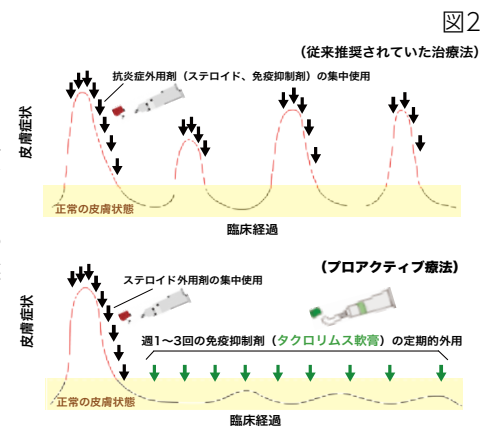


図2

1. 呼吸器外科とは

肺炎、喘息、肺気腫、肺癌などを診る呼吸器内科は馴染みがありますが、「呼吸器外科」って何する科なの？と思われる方は多いと思います。今回は私が担当している呼吸器外科を紹介します。

呼吸器外科では大まかに左右の肋骨に囲まれた空間にある胸の臓器の中で、心臓、大血管、食道、脊椎を除く肺などの臓器を扱っています。肺は外界の空気を吸ったり吐いたりする呼吸を担っている臓器ですので、休むことなく働き続ける生命維持活動にとって大変重要な臓器です。口鼻といった気道と繋がっていますので細菌・ウイルス・有害物質などにさらされてしまい、時には感染症や呼吸障害を来します。

「肺」の病気の中で気胸、肺癌、一部の呼吸器感染症（真菌・抗酸菌）に対して手術を行っているのが呼吸器外科です。また左右の肺に囲まれた「縦隔（じゅうかく）」という場所にできる様々な腫瘍の手術も行っています。

2. どんな病気を扱うの？

「気胸」は肺がパンクして縮んでしまう病気で肺にできた嚢胞（ブラ）が破れてしまうことが原因です。そのパンクを修理する手術（ブラを切除）を行います。痩せた若年男性に多い病気ですが、肺気腫など肺全体がぼろぼろになって穴が開いてしまうような病気もあり、この場合は高齢の男性に多く認められます。

「肺癌」は日本で悪性腫瘍が原因で死亡する年間約 35 万人のうち最も多い 7 万人を占めています。肺癌の手術は医学学会の統計では 7 万件余り行われています。肺癌になった半数以上の患者さまは手術する時期を過ぎて発見されるために、抗癌剤や放射線治療など手術以外の治療が行われます。

「転移性腫瘍」は肺以外（肺癌の肺転移もある）の臓器にがんの原発巣（出火場所）があり、そこから癌細胞が血液にのって肺に行きつき、病巣を形成したものです。これも抗癌剤などの治療と併用して手術が行われることがあります。

「感染性疾患」としてアスペルギルスなどの真菌（かび）や結核に似た抗酸菌などが肺に塊の病巣を形成した際に治療法の一環として手術を行います。また感染症が進行し肺の外側にまで波及すると膿胸という難治性の病態になります。その際も胸にたまった膿を出す手術を行います。

小児においては、先天性肺嚢胞性腺腫様形成奇形という、胎児期より肺に大型の嚢胞が発生し、感染や他の肺の成長を妨げるのを防ぐために、生後まもなく手術を行います。

3. 肺以外にはどんな病気を扱うの？

先程の「縦隔」や「胸膜」の病気も手術することがあります。

縦隔とは解剖学的な場所の名称ですが、この場所には胸腺腫という良性から悪性の幅広い性格をもち、胸腺腫に併存する特有の病気をもち合わせる腫瘍があります。レントゲン写真では胸腺腫自体は発見されにくいので、その特有の併存症が見つかり CT 検査で胸腺腫が見つかることがあります。併存症の中で有名なのは重症筋無力症という神経内科で扱う筋肉に脱力を来してしまう病気です。また重症筋無力症では仮に胸腺腫がなくても治療の一環として胸腺を摘出する手術を行います。

このほか人間の体の発生段階でそれぞれの臓器の源が迷入（本来ないところに紛れ込む）し、それが時間と共に袋状（嚢胞）に大きくなる奇形があります。前腸嚢胞（気管支原性嚢胞や食道嚢胞など）と呼ばれ、治療として手術が行われます。

胸膜の病気では有名なものは、びまん性悪性胸膜中皮腫です。アスベストに暴露し 30 年ぐらい後に発生する悪性度の高い腫瘍です。また稀ですが良性腫瘍として孤立性胸膜線維腫という病気もあります。

4. 最新の手術

胸は大切な心臓・大血管などがあるため肋骨という鎧で囲まれています。手術するにはその鎧である肋骨が邪魔なので以前は肋骨に沿って筋肉（肋間筋）を切って肋骨を器械で広げる操作（開胸）を行い、手術していました。しかし、術後の痛みや呼吸器運動の大切な役割をもつ肋間筋を切ってしまう事による呼吸運動の障害があり、患者さまに負担がかかる手術となっていました。また、高齢者や多くの他の病気を併せ持った患者さまにはリスクが高く、手術が出来ないこともありました。

そこで 1990 年代半ばより胸腔鏡手術が徐々に発展し、現在では多くの病気の手術に導入されています。

胸腔鏡手術は肋間筋に 2cm 位の穴を 3～4 箇所開けて、その穴を通して照明付きカメラと手術器具を挿入して手術を行います。操作する時はモニターに映しだされた映像を元に行います。この結果、整容性に優れ、術後回復のスピード早く、開胸手術ではリスクが高い患者さまでも手術する事が出来ます。

しかし、肺の血管は心臓から直接分岐した大変重要な血管です。手術操作中に誤って損傷すると生命に危険が及びます。過去にこれらの原因でなくなってしまう医療事故の事例も報道されていました。そのため安易に内視鏡手術が良いものと決め付け手術することはお勧めできませんし、内視鏡手術が標準的な開胸手術と比較して全てにおいて優る訳ではございません。手術の最終目標はいかに確実に治して社会復帰できるかです。豊富な経験と確かな知識、さらに患者さまにこれらをきちんと説明でき、信頼できる施設で実施される事をお勧め致します。

5. 当院の呼吸器外科手術

まず、病気の診断をしっかりつけてその所見から手術方法を選択します。それからアプローチ法として胸腔鏡がよいか開胸術かを考えます。前の勤務先である慈恵医大病院呼吸器外科における経験から、胸腔鏡手術が開胸術同等の根治性（病気を治療によってコントロールできる可能性）を保つことができ、かつ侵襲度の軽減が図れると判断した場合に胸腔鏡手術を選択します。結果的に当呼吸器外科手術症例の多くは胸腔鏡手術で行っています。術後の状態や治療効果は、患者さまの満足が得られる結果となっています。



胸腔鏡手術風景



胸腔鏡手術（肺癌）創部

6. 最後にメッセージ

呼吸器の手術の御相談のみならず健診の胸部レントゲンで異常が指摘されたり、以前異常陰影を指摘されたが放置したままになっている方、あるいは当院の胸腔鏡手術に関してもっと詳しい事が知りたい方は、是非呼吸器外科外来にお越しください。また、病気を前にテレビなどのマスメディア等から多くの情報によって混乱していたり、正しい理解ができず不安に思っている方も是非ご相談ください。



呼吸器外科 部長
神谷 紀輝

当院では新薬の開発に幅広く貢献しています。

バイオメディカルリサーチセンター
お問合せ 03-5791-6354

新しい「くすり」を開発するためには「治験(ちけん)」が必要です。治験は健康な方を対象とした第1相試験、患者さまを対象とした第2相および第3相試験の三段階に分けて行われます。

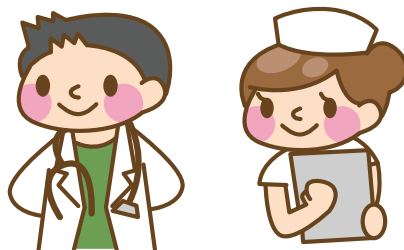


当院ではこれまで多くの方々のご協力をいただきながら第1相から第3相までの治験を行い、様々な薬を世に送り出してまいりました。治験は『未来の患者さまへの贈り物』とも言えます。今後も皆さま方のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

10月開催糖尿病フェスティバル(糖尿病予防キャンペーン)のご案内

当院では毎年11月14日の世界糖尿病デーに合わせて毎年「糖尿病フェスティバル」を開催しております。今年は、港区と北里研究所の共催イベントとして「糖尿病予防キャンペーン」として10月31日に港区役所で開催いたしますので、この機会に是非健康チェックにお越しください。

開催日	平成26年10月31日(金)
時間	午前9時30分～午後12時30分
会場	港区役所1階ロビー南ゾーン
対象者	港区在住・在勤・在学の方
内容	血圧測定・血糖測定
参加費	無料
申込み	不要



参加医療スタッフ／糖尿病専門医、看護師・薬剤師(糖尿病療養指導士)、管理栄養士、臨床検査技師、健康運動指導士

行事予定

<p>■肝臓病教室(無料)</p> <p>開催日 平成26年11月15日(土)</p> <p>時間 午後1時30分～午後3時00分</p> <p>会場 4階A会議室</p> <p>申込方法 TEL 03-5791-6345 (予約センター)</p>	<p>■11月開催糖尿病フェスティバル(無料)</p> <p>開催日 平成26年11月14日(金)</p> <p>時間 午前9時30分～午後12時30分</p> <p>会場 病院1階玄関ホール</p> <p>費用 健康相談会および糖尿病啓蒙ビデオ上映 無料</p>	<p>■ロコモ教室(有料)</p> <p>開催日 平成26年11月10日(月)</p> <p>時間 午後2時00分～午後3時30分</p> <p>会場 4階AB会議室</p> <p>受講料 1,000円(税抜)</p> <p>申込方法 TEL 03-5791-6345 (予約センター)</p>	<p>■生活習慣病教室(無料)</p> <p>開催日 平成26年11月8日(土)</p> <p>時間 午前10時00分～午前11時30分</p> <p>会場 3階セミナー室</p> <p>定員 30名</p> <p>申込方法 TEL 03-5791-6146 (予防医学センター)</p>	<p>■市民公開講座のご案内(無料)</p> <p>テーマ 「肺がん」検診から診断治療まで」</p> <p>開催日 平成26年10月26日(日)</p> <p>時間 午前10時00分～午後11時30分</p> <p>会場 北里大学薬学部コンベンションホール</p> <p>申込方法 不要</p>	<p>■眼瞼下垂セミナー(無料)</p> <p>開催日 平成26年10月14日(火)</p> <p>時間 午後1時30分～午後3時00分</p> <p>会場 薬学部講義室1402</p> <p>定員 50名</p> <p>申込方法 TEL 03-5791-6148 (美容医学)</p>	<p>■リビングウィルセミナー(有料)</p> <p>開催日 平成26年10月4日(土)</p> <p>時間 午前10時00分～午前12時00分</p> <p>会場 北里研究所病院4階AB会議室</p> <p>受講料 2,000円(税抜)</p> <p>定員 20名</p> <p>申込方法 TEL 03-5791-6345 (予約センター)</p>
---	---	--	---	--	--	--

新任医師紹介

平成26年7月1日付



泌尿器科 後期研修医
本田 智嗣
(ほんだ ともつぐ)

退職医師紹介

平成26年6月30日付 泌尿器科 立花 貴史
平成26年7月31日付 消化器内科 加藤 裕佳子

編集後記

気がつけばもう10月。収穫の秋、読書の秋、スポーツの秋…。いろいろな秋を耳にしますが、専ら私は「食欲の秋」ですね。しかし、一方では「防災の秋」といわれているのをご存知でしょうか？

当院では、毎年秋頃に防災訓練を実施しており、今年も10月に実施します。防災訓練というと、避難訓練や、消火訓練などがイメージしやすいと思いますが、今年は少し角度を変えて、患者搬送訓練や、断水時などに使用する簡易トイレの設置訓練、災害拠点病院に展開されるトリアージ Tent の設営訓練など、大規模災害時の初動体制について訓練を実施します。

『秋』の訓練だけに『飽き』の来ない訓練内容を今後も実施して行きたいと思っています。

(荒井)